

# 研究会に

## 想いをはせて



山村 きよ

はじめに

一九五八年をふりかえっていろいろと自分の仕事を反省しながら、「研究のもち方」について何かすっきりしない気持ちもちあぐねていたところに編集部の御依頼があつて最近の「研究会の動向」を書けとのこと、私などが限られた範囲でのぞき見する研究会についてのこと、私などが一般的意見ではないと躊躇しながらも、反面には一昨年来、秋山ちえ子さんが幼児教育誌に、また婦人公論などの大衆雑誌に現在の幼稚園教育や、幼稚園の先生がたを白い目で見た批判的な記事をのせられたのを見て、多くの幼稚園の先生がたの中には共に幼児教育ととりくんで勉強し合ったり、またあちこちの研究会でお顔なじみの先生がたもあるので、誌上を通して共に考えることも無意味なことではないと考えてスペースをいただきました。

### 最近のぞき見した研究会の傾向

\*カリキュラムの形式論からぬけ出して、保育の実践にうつった現在の研究会

戦後、小学校カリキュラム論議のあとをうけて一時は形式的なカリキュラム論でわき立っていた幼稚園界の研究会も、だんだん下火になって、一昨年教育要領が示されてからは、その内容を理解するためにいろいろと研究会がもたれたり、とくにその実践指導の具体的なカリキュラムの研究に苦心している研究会が多くなったのではないのでしょうか？

教育要領の内容としてはっきり浮かびあがった「集団指導」や「小学校との関連問題」などあちこちの研究団体でとりあげた課題のように思います。

しかし、また中には教育要領ではっきり六領域を示されたことを重大視するのか？ 小学校の教科課程と同じような解釈をされたり、また私共が研究会を主催しようとする場合にも「自然の指導は？」、「社会のとりあつかいは？」などと一つ一つばらばらな領域別に考える先生がたの多いことに驚きます。そして時には幼稚園教育の姿が「小学校的になりはせぬか？」と心配させられた時もありました。

しかしまた最近の傾向はそうした心配もなくなって一つ一つの

「領域のつながり」や「領域の中での友達づくり」「領域の中での生活指導」「領域をつなげるための保育形態の工夫」など幼児教育本来の姿をつかもうとする傾向もでてきたのではないのでしょうか？

### \*文部省主催のワークショップ指導者講座に参加する人たちに よる事前研究会

毎年一回文部省が西と東に幼稚園の各県代表をあつめてワークショップを開催してくださるようになってからはどの地方でもそれに参加する人たちの事前研究熱がたかまってきたことを喜んでいる一人です。

東京でも教育委員会指導室のきもいりて実に熱心に研究会がもたれています。出発前数回集って研究されたいろいろの資料をもつて参加されることはいつも二学期始に開かれるワークショップ報告会でもたのしく感ぜられることです。しかもその資料にのった研究内容は、日々の忙しい仕事の中でまじめに観察し得たものや、多くの経験の中から生まれた記録の集録などが伝達されて、とても力強く感じさせられたり、共鳴させられることがあります。とくに本年度の報告によると、各県から、実に多くの資料があつまって紹介しきれなかったとか……うれしいことです。

### \*全国国公立幼稚園教育研究協議会

昨夏東京に開催された第四回全国国公立幼稚園教育研究協議会では今まで幼稚園の研究会というところ、とかく指導技術の末端のところ、で表面的なことがだけが問題になって、たいせつな幼児教育の根本にまで及ばないことが多いように思われましたので、全国から集る熱心な先生がたによって幼稚園教育の根本的な問題を系統的に研究してみたいという主催者側の意見で、「幼稚園教育要領の正しいうけとめ」という課題のもとに四つの分科会をもちました。

○第一分科会「集団指導について」

○第二「教育要領のうけとめ方」

○第三「表現活動について」

○第四「一日の教育計画について」

わずか二日間の会期ではこんな大きな問題ととりくむことは無理であったという多くの反省がもたれたようです。しかしまた反面には予期していたような「研究の糸口」がみつかったと喜んで帰られたかたもあって、東京でも研究会のあとをうけて「自由遊びについて」「集団指導について」「基本的な生活習慣の形成について」など課題をもって継続研究会がもたれました。

しかし大多数のかたがたの中には「もちかえるおみやげがなかった」という声もあって、それが反映したのか本年第五回の研究協議会が名古屋で開催された時には二日間で一応の成果がまとまるような問題がかかげられ、次のような四分科会にわかれて、日々の教育

の中から具体的な多くの実践問題を協議し合ったり、また各分科会ごとに尊い研究発表がなされたようです。

○第一部会「自然の指導はどのようにしたらよいか」

○第二〃「絵画製作の指導」

○第三〃「言語の指導はどのようにしているか」

○第四〃「保育室の環境構成について」

私も役目から四つの分科会場をのぞき見して熱心なディスカッションに耳をかたむけましたが、どこに行っても幼稚園の先生がたは一つのタイプのあることをつくづくと感じさせられました。「発言することよりも、まず聞いたことを筆記しておみやげに」と。

しかし発言された先生がたの一言一言が日々のこどもの姿をおいにかけて、正しくとらえた事例が各地の地域性をはっきりと表わしながら会員同志結びついてゆくことにまた愉快さをおぼえました。

#### \* 東京都公立幼稚園教育会の研究

東京都公立幼稚園教育会でも今までのべてきた研究会の動向と同じようなうごきがここ二、三年来感じられるように想われます。ことに東京の場合は講師の先生がたを自由にお願いでできる便があったり、また会員の要望もいろいろで、とかく数多い研究会が開かれるためか会員の負担が多すぎはせぬかと時々心配させられます。そこで継続研究会もその運営がむずかしく、主催者としては一〇名でも

一五名でも数少ない同一会員の継続的参加を求めているのに、なかなか同一会員の出席が得られないで誠に残念でなりません。いつも違ったメンバーが多くなるために問題の把握をするために「くりかえしの時間」を多くとられて会員同志の意気が盛り上らぬままに終ってしまうことが多いわけで、かえすがえすも残念に思うことの一つです。研究方法のまずさか、研究テーマの選定をまちがえたのか?……とにかく継続研究の運営のむずかしさをつくづくと感じさせられておるとき、東私幼城南部会の「地域研究会のもち方」を拝見しておおいに参考となりました。

しかし継続研究会の運営のむずかしさはあちこちで耳にします。たとえば文部省主催のワークショップに出席したかたがたが、参加する前から小人数で勉強し合い、また開催期間中四、五日間寝食を共にして一生懸命勉強し合って、実に意気統合し、それぞれの団体に報告がすんだ後は必ず継続して勉強していることと自から約束されたはずなのに……自然と消えてゆくのはどうしたことでしょう。多忙なために出席でき得ないことが何よりの理由とは思えますが……約束した人数の集らぬことをなげいておられるグループのようすを耳にして「どこに盲点があるのか?」考え出したいものです。

#### \* 幼児の行動の評価の研究

昨年末から東京都公立幼稚園専任園長の仲間間で指導要録記入の際

におこる評価のいろいろな問題をけんとうしているうちに何かの基準をつくりたいということから始めたのが「幼児の行動の評価」ということでした。これはやや継続的につづけられそうです。第一歩として社会性の問題ととりくみ、ごく身近なことから、入園当初を手始めに研究を始め、三木先生の御指導をうけたり、東大心理学教室のかたがたをお願いしたりして一学期中の一応のまとめができたところですが、このことについては台東区富士幼稚園の松石園長が「保育の手帖一月号」にのせて下さるはずで、他の継続研究とちがってながつづきしていることは毎月十日から一週間をかぎってゆめられた組の子どもの行動記録を持ちよることで興味がつづいてゆくことだと想います。

#### \*放送教育研究会、視聴覚教育研究会など

NHKの応援によって全国の学校放送教育研究会が今年で第九回を重ねてその大会が各地を廻って盛大におこなわれ、今年も東京が会場となり幼、小、中、高、共同参加のもとに盛大におこなわれることになりました（十一月一九、二〇、二一）。公、私立の幼稚園や保育園が参加するようになったのは三年前からでおいに期待されております。ことに本年度は各地区別にも福島、茨城、神奈川、岡山、福岡などの研究会が実に盛況だったとか、放送教育の研究会がこの交換のできるようになったことをうれしく思います。

#### おわりに

最初かきましたように、今までのべてきたことはごくせまい範囲の私見でお恥ずかしい次第ですが、研究会の運営のむずかしさは今にはじまったことではなく、主催者側の運営の仕方や、司会者、講師の助言などにもずいぶん左右されると思います。ことに会員同志のふんいきはまた非常にデリケートで、二、三のかたがたの発言につれて自然に盛り上ってゆく場合と、せっかくよい発言がなされても誰もうけとめるかたがないままに、講師の一人舞台で終ってしまいうこともよくあることです。そうした中においていつも苦しむことは、与えられた問題を理屈せめにして考える人たちと、表面に表われた具体的な問題のみで処理しようとする人たちのバランスがとれないで、「いつも抽象的な問題と具体的な問題ををいりくませてもたまたしている」自分を恥ずかしく思います。

最近、秋山ちえ子さんの記事にはつぶんして抗議をするのでなく「自分たちがもっと勉強しなくては」と考え出した二、三の先生がたに相談をうけて「誰からの干渉もうけない気がするにもの言える会合」をもちました。第一回を終った感想は「研究会らしくない」というかたがたもあつたようですが、先をいそがずに、気ながに勉強してゆこうという意気込みだけはみんな持ち合つたようです。私自身おおいに勉強する機会を与えられたとはりきつて出席する覚悟をもちました。（昭和三十三年十月十日 東京都公立幼稚園教育研究会長）